



図書館員の
おすすめする一冊

松戸市立図書館

令和2年度版



知る・読む・調べる・・・P.1

世界を見る・・・・・・・・P.4

社会を見る・・・・・・・・P.6

自然と生きもの・・・・・・・・P.10

技術と暮らし・・・・・・・・P.12



芸と娯(たの)しみ・・・P.17

文学・・・・・・・・P.24





知る・読む・調べる



リスクマネジメントを仕事とするには



タイトルに、「エンジニアのための」となっておりますが、リスクマネジメントの基本となる、「リスクマネジメントフレームワークの成り立ち」「リスクコントロール」「3LoD」などリスクマネジメントの入門書として整理して書かれています。

事例や実体験を多く書かれておりますので、トラブルに遭遇した際に参考になるかと思えます。

『エンジニアのためのリスクマネジメント入門』
田邊 一盛 // 著, 技術評論社, 2020 年,
978-4-297-11193-9

システム障害の対応手順の体系化



経験則で障害対応を行うのではなく、障害対応を体系化することで、障害時の適切な対応方法を行うことを目指せます。

- ポストモーテム
- War room

について、詳しく説明されております。

『システム障害対応の教科書』
木村 誠明 // 著, 技術評論社, 2020 年,
978-4-297-11265-3

戦国時代に図書館があった！？



世界の図書館の歴史は紀元前と言われていますが、日本の図書館の歴史は?と問われると即答できる方は少ないのではないのでしょうか(諸説あるそうです)。

この本では、戦国大名が設置していた文庫や収集していた本等を紹介し、私設図書館のようなものが存在したということを明らかにした一冊です。海外の図書館や印刷技術の伝来にも触れ、戦国時代の本のあり方の変化についても非常に興味深い一冊です。

『戦国の図書館』

新藤 透//著, 東京堂出版, 2020年,
978-4-490-21037-8

それでも、本を読むあなたに。



本を紹介するエッセイで、ジャンルは小説から、写真集、マンガ、ノンフィクション…と多岐にわたります。1つのエッセイに、複数の本が関連づけて紹介されていることも興味深く、著者の経験や暮らしの中にいかに影響を与えてきたかがええます。本なんて…というタイトルですが、本が自分の人生に彩りを加えてくれること、そんな本を自分で見つける期待感…本を読むことに意味があると思わせてくれます。

『本なんて読まなくていいのだけれど、』

幅 允孝//著, 晶文社, 2014年,
978-4-7949-6858-6

クリエイターのための権利 Q&A



インターネットでは、クリエイターが作った著作物を無断で利用されていることが少なくありません。そんな時、この本を読めば権利侵害者とどのように対峙していくか、どのようにプロパイダへ開示請求を行うか、それらの弁護士費用はどれぐらいなど具体的な対応について詳細に記述があります。クリエイター必見の一冊です。

『クリエイター必携ネットの権利トラブル解決の極意』

岩崎 拓哉//著, 秀和システム, 2019年,
978-4-7980-5693-7

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

あまり本を読まない方に



大人になってから是非一度読んでいただきたい一冊です。内容は多岐にわたり、仕事・料理・緊急時の対処の仕方まであります。イラスト入りなので、楽しく学ぶ事ができます。何か困った時にその部分を参考にしても良いと思います。

コロナ禍で家で過ごす時間が多いと思いますので、気軽に読める一冊です。

『スマートに生き抜くための大人のマナーと作法大全』
成美堂出版編集部 // 編, 成美堂出版, 2013年,
978-4-415-31475-4

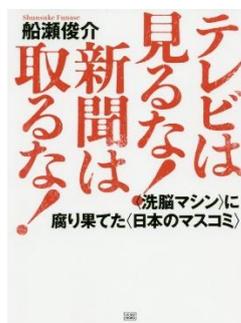
どんな名前? 街を歩いた時に、目に映るもの



道路工事の時に置いてあるポール、なんて名前だろう? マンホールの蓋って、下水道以外にもあるの? 郵便ポスト、こんな種類があるの? 私の街にあるのはどの形だろう? 街を歩いているときに自然と目に入るものの名前や種類、役割が、たくさんの写真と一緒に解説されています。この本を読み終わる頃には、街が一変して見えるかもしれません。続刊の『街角図鑑 街と境界編』もオススメです!

『街角図鑑』
三土 たつお // 編著, 実業之日本社, 2016年,
978-4-408-11183-4

テレビをみるなら、短時間で客観的にみよう



この世の中はフェイクニュースであふれている。この過激なタイトルにひかれ、この本を読み始めた。戦慄するほど怖い内容だった。すべてを信じるかどうかは読み人しだいだと思う。今まで受動的に TV を見てきたが、この本を読んで短時間で客観的に TV を見なければ、洗脳されてしまうのだと知った。世界中のお金持ちはほとんど TV を見ないのだそう。なぜなら、TV が受動的で多くの時間を奪ってしまうから。肝に銘じて毎日を過ごしていくことに決めた。

『テレビは見るな!新聞は取るな!』
船瀬 俊介 // 著, 成甲書房, 2020年,
978-4-88086-372-6

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

日本古来のまじない、のろい



「陰陽師」を扱った小説で、日本古来の人々がおふだや人形を使って呪術を駆使しているシーンを読んだことはあるでしょうか。

実際に出土した人形の木簡や土器の写真を眺めながら、日本の文化の中に息づくおふだやお守りのルーツとなる呪術について知ってみませんか？

『まじないの文化史』

新潟県立歴史博物館 // 監修, 河出書房新社,
2020年, 978-4-309-22803-7



ただの壁の歴史と侮るなかれ



この本は、ただ“壁”の歴史を紹介している本ではありません。この本が描き出すのはあくまでも、“壁”を通して語られる人間の物語です。現代は世界各地で分断が顕在化していると言われるかもしれませんが、それは何も現代に限ったことではないと著者は指摘します。なぜなら“壁”という分断の象徴が世界各地に存在してきたという事実が、それを物語っているからです。

“壁”という何ともマニアックな題材で、私たちの分断の歴史が鮮やかに紐解かれていく内容は、現代を考える何らかのヒントになり得るかもしれませぬ。

『壁の世界史』

イアン ヴォルナー // 著, 中央公論新社, 2020年,
978-4-12-005288-0

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

江戸時代の暮らしぶりイメージとは少し違う!?



将軍の政務や参勤交代、庶民のペットや結婚事情、江戸の火消し、長屋での暮らし方等々『江戸ならではの暮らし』を可愛いイラストと文章でまとめられている一冊です。

東京の礎となった江戸という一時代の背景や歴史を知ることができるので、東京を散策しているとその名残を感じる事も出来ます。

そして江戸時代の人々の丁寧でユーモアあふれる暮らしぶりは今に通じるものもあり、日々を楽しむヒントが見つけれられるかもしれません。

『イラストでよくわかる江戸時代の本』
ミニマル//編著 ブロックバスター//編著, 彩図社,
2020年, 978-4-8013-0471-0



ユーモアが描く第三帝国の世界



国民から高い支持を得て、あたかも皇帝のごとく君臨したヒトラーは、対立国から見れば憎悪や恐怖の権化のように映ったことでしょう。しかし、それゆえに、ヒトラーは格好の対象として多くの風刺画の中に描かれてきました。

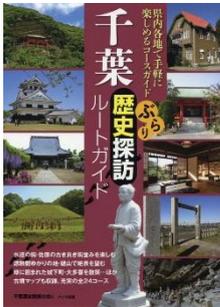
社会や人物をユニークに皮肉ることに長けている風刺画ですが、そこには、つらい世の中に立ち向かう人間の強さも現れています。では、当時の人々はどのようにヒトラーを皮肉り、立ち向かっていったのでしょうか？

“現代を強く生き抜く” そのヒントにもなるユーモアの世界を、ぜひその眼でお確かめ下さい。

『風刺画とジョークが描いたヒトラーの帝国』
若林 悠//著, 現代書館, 2020年,
978-4-7684-5881-5

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

ぶらり歴史旅



遠方に旅行するのも憚られる時期が続いていますが、そんな時こそ身近な地域の歴史に触れてみるのはいかがでしょうか。

松戸市の宿場町コースをはじめ、千葉県内の24種類の歴史探訪コースが案内されています。

本を読むだけでも、写真と簡易な解説文で千葉県の歴史の一端に接することができるオススメの本です。

『千葉県ぶらり歴史探訪ルートガイド』

千葉歴史散策の会 // 著, メイツ出版 2019年,
978-4-7804-2180-4



無形資産の重要性



デジタル技術の発展により、表向き無料で提供されているサービスが多くなることで、これまでの「価格」概念が崩れてきている。新しい時代の経済について有識者の意見を基に構成されている。国内総生産(GDP)の算出にも異変が起きている。有形資産よりも無形資産の割合が多くなり、実体が掴めず正確にGDPが出せない状況となっているいま、GDPに変わる新たな指標をどうしていくのかなど興味深い。

『NEO ECONOMY』

日本経済新聞社 // 編, 日経BP日本経済新聞出版
版本部, 2020年, 978-4-532-35852-5

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

経済学の知見を活用してもらいたい



二人の経済学者（アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ）が、身近なテーマから、政治と経済の今について語っています。

お金だけでは解決できないこと、いろいろなトレードオフが生じることなど、社会が良い方向に向かうための本質とはと、問いかけています。

『絶望を希望に変える経済学』

アビジット V.バナジー // 著, 日経 BP 日本経済新聞出版本部, 2020年, 978-4-532-35853-2

養子の子の気持ちを汲むということ



養子縁組という結びつきの親子について、特に子ども自身が抱く感情とは、一体どのようなのでしょうか。

この本を読むと、養子に迎えられた子ども自身が向き合う戸惑い、生みの親との繋がりを失くしていると自覚した時の喪失感と出会うこととなります。

親と子の結びつきの強さについて、改めて考えさせられる一冊です。

『養子縁組を考えたら読む本』

シェリー エルドリッジ // 著, 明石書店, 2019年, 978-4-7503-4845-2

大人にされてしまう子供たち



日本の子供の「7人に1人」が「貧困状態」にある。スマホを持ち最新のファッションに身を包み一見するとそうは見えない子供たち。

しかし、その事実は何れも深刻だった。家計のため、自らの進学のために働く高校生たちの見えない貧困を可視化する。

『高校生ワーキングプア』

NHK スペシャル取材班 // 著, 新潮社, 2018年, 978-4-10-405609-5

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

子どもや若者が経験した家族介護やケア

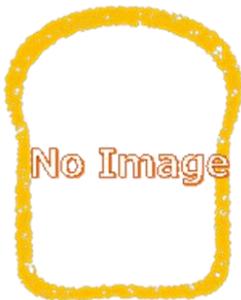


「ヤングケアラー」＝ケアが必要な家族の世話をしている18歳未満の子どもや若者、と聞いて、最初に思い浮かべるのはどんな人の姿でしょうか。

この本を読むと、思春期や青年期を家族介護やケアを過ごした、家族を支えようとした若者たちの姿を体験することができます。

『ヤングケアラーわたしの語り』
澁谷 智子//編, 生活書院,2020年,
978-4-86500-118-1

入試倍率は東大の3倍、東京藝大



松戸市では、日常の生活の営みそのものを文化や芸術と捉えて、豊かな表現に満ちた「暮らしの芸術都市」を創造し発信していく試みを行っています。芸術ってよくわからない、芸術について学びたいけどどうすればいいかわからない、そんな方も多いはず。本作は藝大生を妻に持つ著者が、入試倍率は東大の3倍、卒業後は行方不明者多数など謎に満ちた東京藝大に潜入した探検記。大変読みやすく、興味深いエピソードが満載で、飽きることはありません。芸術系大学を目指す学生の方はもちろんですが、芸術入門書としてもお勧めの一冊です。

『最後の秘境東京藝大』
二宮 敦人//著, 新潮社,2016年,
978-4-10-350291-3

あのモノのはじまりは〇〇だった？！



わたしたちの身の回りにある「モノ」は、時を経てさまざまな形に変化してきました。そんな「モノ」ですが、はじまりはどこからだったのか気になったことはないですか？この本を読めば、衣食住からはじまるさまざまな「モノ」のはじまりを知ることができますよ。読んだ後、誰かに話したくなる物語があります。

『モノのはじまりを知る事典』
木村 茂光//ほか著, 吉川弘文館,
2019年, 978-4-642-08368-3

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

英国人と文化人類学者の奇妙な一面



人々のふるまいを調べるために、ひたすら街ゆく人々にわざと（でも決してそのように見えないように）肩をぶつけて反応を調べる…これはれっきとした文化人類学の観察方法なのだそう。

著者の（一般人からするとびっくりするような）文化人類学の調査方法や、そうした調査から明らかになった、英国人のいわゆる階級ごとのふるまいの別に驚きの連続でした。こちらは原著の前半部分でした、後半部分は『さらに不思議なイングリッシュネス』に続きます。

『イングリッシュネス』
ケイト フォックス//著, みすず書房,2017年,
978-4-622-08660-4

吉兆とは



「こんなことがあるとラッキー」という言い伝え、たとえば「茶柱が立つ」はよく知られていますよね。でも、「血豆ができる」「白ワインをこぼす」などは、え？ホントに？とってしまいます。

それでも、一見よくないできごとを前向きにとらえる、この気持ちが幸せを招くのかもかもしれません。

読んで楽しくなる本です。

『信じてみたい幸せを招く世界のしるし』
米澤 敬//著, 創元社,2017年,
978-4-422-70106-6



※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。



自然と生きもの

日常にすこしの石を



きれいな石を見ると心が動かされる方も多いと思います。
この本は、そんな石を日常で楽しもうといった一冊です。
ただ拾った石を家に置いたり、鉱物の展示即売会であるミネラルショーで購入したり、石をスノードームにしたりと、様々な楽しみ方をこの本は提示してくれます。鉱物用語や博物館の案内など、初心者でもわかりやすい一冊です。

『鉱物アソビ』

フジイ キョウコ // 編, ブルース・インターアクションズ,
2008年, 978-4-86020-294-1

教科書には載っていない生物のはなし



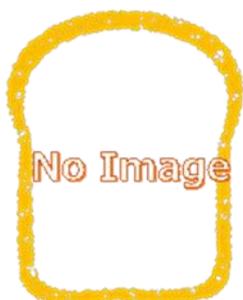
みなさんは、なぜDNAが二重らせんなのかご存知ですか？
また、なぜ植物は緑色なのか、カエルの卵が黒いのか、疑問に思ったことはありますか？
この本は、生物のしくみをわかりやすく解説してくれているので、
学生時代、生物学が苦手だった方にも楽しく読んでいただけたと思います。

『面白くて眠れなくなる生物学』

長谷川 英祐 // 著, PHP 研究所, 2014年,
978-4-569-81745-3

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

「私たちはある生き物に多面的な価値があることに気づかず、その生き物が呼び起こす感情にばかり目を奪われてしまう。」
(本文 p191)



ケナガマンモス、リョコウバト、クアツガ、オオフクロオオカミ…。絶滅した動物たちが、また地上に甦るとしたら…。

絶滅動物を現代に甦らせる「ディ・エクステンクション」をめぐる諸説や最新技術（クリスパー、クローン、合成ゲノム…）、携わる人々について、科学番組ディレクターのブリット・レイが紡いだノンフィクション。

最先端技術を駆使し、リアル「ジュラシック・パーク」を実現することはできるのか。そして、実現した先に、何があるのか。生物の多様性について、改めて考えさせられる一冊。

『絶滅動物は甦らせるべきか?』
ブリット レイ // 著, 双葉社, 2020 年,
978-4-575-31525-7



お家で（ひとりでも）できる自分メンテナンス



昨年は『養生訓』をおすすめしたのですが、今年度はお家で自分でお灸の本をお勧めします。日頃から鍼灸院に通っているのですが（虚弱体質でして…）、忙しかったりステイホームで出かけづらくなって鍼灸院にいけない時は、こちらの本を見ながらセルフメンテナンスを始めました。ちょっとした時間で体がすぐに温まるので、最近のつらい寒さもこれで乗り切っています。

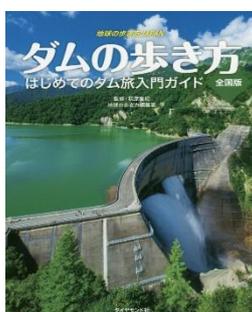
『お灸のすすめ』
お灸普及の会 // 編, 池田書店, 2020 年,
978-4-262-12363-9

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。



技術と暮らし

ダムの旅入門書

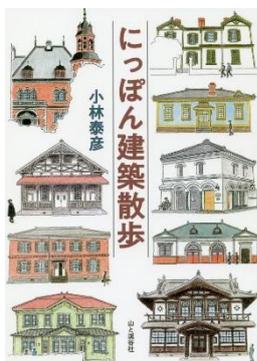


ダムというと治水のための施設ですが、実は愛好家の方にとっては観光スポットでもあります。そんな全国各地のダムの魅力をとことろせましと書いたあまり類をみない一冊です。ダムカードの入手方法やダムの基礎知識など、ダムの入門書としても利用できます。

『ダムの歩き方』

萩原 雅紀 // 監修, ダイヤモンド社, 2018年,
978-4-478-82167-1

眺めているだけでも楽しい建築ガイド



日本30エリアにある歴史的建築物を、イラストと地図とともに紹介する本です。建物を見るためのおすすめ散歩コースが紹介されており、紹介文は実際にそのコースを歩いた際にまず見えてくるものや、目立つ部分、注目してほしいことなどの著者のおすすめポイントがエッセイのように書かれています。私は建築について詳しくないのですが、建物のイラストを眺めているだけでも楽しく、紹介文を読めば実際に建物を見に行っているかのような気持ちにさせてくれます。この本を片手に、ちょっと凝った散歩を試してみるのも面白いのではないのでしょうか。

『にっぽん建築散歩』

小林 泰彦 // 著, 山と溪谷社, 2019年,
978-4-635-24119-9

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

きっとおいしい寿司が食べたくなります



家族で営む寿司屋のおかみさんによる寿司、お店、家族にまつわるエッセイです。明るい人柄でお客さんにも慕われた大将が亡くなった。

大将の闘病中も亡くなった後も息子の二代目とお店を守るおかみさんの日々が綴られています。そこには大将への想いがあふれ、読み進めると温かな気持ちになります。

おいしそうな寿司の話や二代目の作る料理にワクワクし、前を向いて進むおかみさんに元気をもらえる一冊です。

以前に出版されている「寿司屋のかみさん」シリーズもおおすすめです。

『寿司屋のかみさんサヨナラ大将』
佐川 芳枝 // 著, 講談社, 2020 年,
978-4-06-520625-6

駅弁の掛け紙あれこれ



全国各駅で売っている駅弁、その掛け紙なんてみんな同じだと思いませんか?実はそうではなく、各地域ごとのカラーがあり、その掛け紙をみるだけでその地域の歴史も伺い知れるかも?

『駅弁掛け紙ものがたり』
上杉 剛嗣 // 著, けやき出版, 2009 年,
978-4-87751-378-8

片付けで人生が豊かになる!?



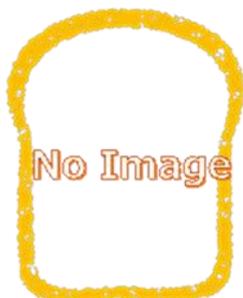
本書でいう片づけの定義は「しまうこと」ではなく「捨てること」。モノを減らし、モノを探す時間、モノを管理する時間やコストを減らすことで、人生で使える時間やお金が最大化され、人生をもっと豊かにするための DaiGo メソッドが網羅されています。

コロナ禍で家にいることが増えて、家の片付けを始めたけど、なかなかうまくいかないという方、本書を読んで、家の片付けついでに人生をもっと豊かにしちゃいましょう。

『人生を思い通りに操る片づけの心理法則』
メンタリスト DaiGo // 著, 学研プラス, 2017 年,
978-4-05-406599-4

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

これからお父さんお母さんになる方必見！



絵本作家のヨシタケシンスケさんの実体験を基にした、子育て中のパパやママに向けたイラストエッセイ集です。

共感できる場所では「ホッ」とし、共感できない場所ではツッコミを入れながら、楽しく読めます。

子育てをひと段落した方でも楽しめます。

子どもと一緒に親も成長しているのですね。

『ヨチヨチ父』

ヨシタケ シンスケ // 著, 赤ちゃんとママ社, 2017年,
978-4-87014-126-1

コロナ禍でのおうち時間の楽しみ方



長く続くコロナ禍で小さな子供たちの過ごす行動範囲は大変狭くなっており、五感を育てる大切な時期を失っています。そこでただ緩慢に過ごすのではなく、本の中で紹介されている遊びを楽しみながら是非大切なお子様の感性を伸ばしてあげて欲しい。TVやスマートフォン、ゲーム機では体験できない子供との触れ合いを今だからこそ感じて楽しんでほしい。

小さな頃の親子の何気ない触れ合いは、振り返って懐かしむのはむしろ親の方かもしれません。

『非認知能力が育つ 3~6 歳児のあそび図鑑』

原坂 一郎 // 監修, 池田書店, 2020年,
978-4-262-16440-3

りんご入門書



身近な果物であるりんご。ただ、りんごの国内産地ベスト 3 やりんごの作り方をクイズで出されたら意外と答えられない方も多いのではないのでしょうか。

この本は、そんなりんごの歴史や作り方、品種やレシピなどりんご雑学が学べる一冊です。この本を読んでりんごについて改めて学びませんか？

『リンゴを食べる教科書』

丹野 清志 // 著, ナツメ社, 2017 年,
978-4-8163-6261-3

元警部補コリンと元保護犬モリーは名コンビ！



幼いころから動物が大好きだったコリンは、行方不明の猫を犬と一緒に探すという野望を抱いていた。警察官、私立探偵を経てペット探偵になり、夢を叶えようとするが、いくつもの大きな壁が立ちはだかりなかなか実現できず。それでもコリンは諦めずに努力し続け、ついに相棒のモリーと出会う。

コリンとモリーが名コンビとなり活躍するまでの感動の軌跡、そして彼らが携わった事件の数々をぜひお読みください。

『モリー、100匹の猫を見つけた保護犬』

コリン ブッチャー // 著, 東京創元社, 2020 年,
978-4-488-00393-7



※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

意外と知らない魚の捌き方



既にさばいてある魚を買うことが多い昨今、改めて魚をさばこうと思っても意外と忘れていませんか？

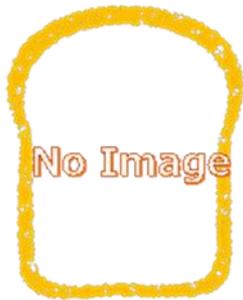
そんな時にこの本なら、改めてさばき方も学べて、かつよく食用にされる魚の雑学も学べます。

また、魚の目利きの方法も書いてあるので、魚料理を作ろうと思ったときもこの本があればおいしい魚を選べるおいしい一冊です。

『さばきもわかる食材魚図鑑』

池田書店編集部 // 編, 池田書店, 2008年,
978-4-262-12932-7

「どうして人気が出るのか」というシンプルかつ深いテーマ



音楽、本、アート、映画、商品そして人物まで、様々な分野のヒットが生まれる秘密を分析しています。

消費者の多くは「ネオフィリア」と同時に、重度の「ネオフォビア」である。ヒットメーカーは、ネオフィリアとネオファビアをうまく組み合わせ、消費者に「わかる瞬間」を作り出しています。

ヒットの法則とは、

- なじみ感+ひとつだけ意外感
- リズムと型
- そして運

『ヒットの設計図』

テレク トンプソン // 著, 早川書房, 2018年,
978-4-15-209802-3



芸と娯(たの)しみ

脱線も楽しみのひとつ



美術館に行くたびに、自分の教養のなさに絶望するため、何度か日本美術史に挑戦してきましたが、教科書みたいでなかなか読破できず…。

こちらの橋本治氏の美術史は、雑誌『芸術新潮』での連載を、写真も豊富にまとめたもの。橋本氏お得意の脱線も、読み進めていくうえでの楽しみの一つです。逝去からちょうど約1年…惜しみつつ再読しようと思います。

『ひらがな日本美術史』
橋本 治//著, 新潮社, 1995年,
4-10-406101-8

美術応援団による「社会科見学」とは？



美術家・作家の赤瀬川 原平さんと、美術史家・美術評論家の山下裕二さんの、「日本美術応援団」の二人が、様々な場所を訪れて対話する対談集です。訪問先は国会議事堂、鎌倉、と「社会科見学」という言葉がぴったりの場所ですが、美術家の二人の目を通して見ると「美術」だと感じられ、「美術」や「社会科見学」をこんなふう楽しむことができるんだ、と楽しく読むことができました。

「日本美術応援団」は他にも「京都、オトナの修学旅行」や「雪舟応援団」などのテーマで本を出しているのので、気になるものがあつたらぜひ手に取ってみてください。

『日本美術応援団オトナの社会科見学』
赤瀬川 原平//ほか著, 中央公論新社,
2003年, 4-12-003394-5

かわいい動物から日本画を眺めてみよう



昔行ったある美術展の終わり際、金魚が人間のように二足で立って、杖やうちわを持ちながら歩いている絵をモチーフにしたグッズを見かけました。周りには他にも猫や犬の日本画のグッズがずらり。

日本画は風景や人物だけではなく、動物モチーフのものもたくさんあると知った瞬間でした。

かわいい動物の世界から、日本画に触れてみてはいかがでしょうか。

『江戸かわいい動物』

金子 信久 // 著, 講談社, 2015 年,
978-4-06-219433-4

琳派って何？



琳派誕生の始めからその後、現代に至るまでのすべての道筋と特色とがわかりやすい。

まずは京の都に花開いた俵屋宗達と尾形光琳の琳派、それから酒井抱一や鈴木其一によって異種の果物を実らせた江戸琳派、さらに明治以降の近現代に受け継がれた琳派伝統のその後にも話題を広げている。

カラーページが楽しく、話し言葉による語り口で気軽に楽しめます。

『教えてコバチュウ先生!琳派超入門』

小林 忠 // 著, 小学館, 2020 年,
978-4-09-682340-8

いつかは前に進む・・・



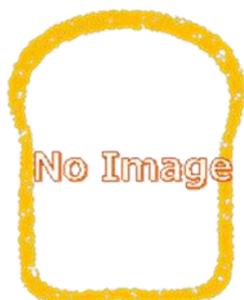
大人向け絵本。簡単な線一本のイラストで話が進む。ちょっと前へ進む勇気がなくなったとき、「誰か、ひと押ししてくれないかな？」なんて思うときに、この本が「ひと押し」してくれました。

ガマン、ガマンが続く昨今。なかなか思うように進まないこの時にこの本を読み進み、最後は主人公？と一緒に転がりましょう。

『ぼくを探しに』

シル・シルグ アスタイン // 著, 講談社, 1997 年,
4-06-112983-X

この漫画って音楽と関係あるんだ…



吹奏楽やバンド、オーケストラ、合唱など、音楽を題材にした漫画は数多くあります。この本は今まで出版された音楽に関する漫画を網羅的に紹介した一冊です。

この本の特徴としては「この漫画って音楽と関係あるんだ…」といった漫画までカバーしていることです。例えば『部長島耕作』や『SKET DANCE』など、一見音楽とあまり関係のなさそうな漫画でも、音楽に関する要素を解説しており、つい膝を打ってしまいました。音楽漫画が好きな方にオススメの一冊です。

『音楽マンガガイドブック』

松永 良平 // 監修, ディスクユニオン, 2014 年,
978-4-925064-90-3

和柄模様を眺めてみましょう



最近よく見かける和柄、そういえばどんな名前だったかしら？
着物や和小物で見かける和柄の模様を、図と説明で沢山知ることができます。

この本をきっかけに日本の文様を眺めてみませんか？

『日本の伝統文様事典』

片野 孝志 // 著, 講談社, 2000 年,
4-06-268570-1

折紙、ここに極まれり



「不切正方形一枚折り」という言葉を知っていますか？その言葉のとおり、正方形の紙 1 枚を、切込みなどを入れずに折って作る、折紙のジャンルのことです。折紙の作品で代表的な鶴もこれに含まれます。

この本で紹介されている作品も「不切正方形一枚折り」のものばかりです。一見すると「えっ本当に？」と思うものもあり、とてもレベルが高いのですが、だからこそ味わえる達成感を、ぜひ堪能してください。

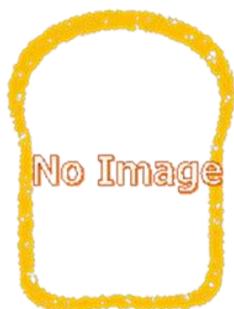
展開図だけを頼りに折り進める「展開図折り」にもチャレンジできますが・・・くれぐれも、本も「不切」をお願いします。

『難しいから面白い!東大折紙』

Orist // 著, マガジンハウス, 2020 年,
978-4-8387-3121-3

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

こけしには、様々な種類があることをご存知ですか？



こけし図鑑！？こけしに種類なんてあるの？と、この本が目にとまったら、ぜひお手に取ってみてください。作られた地域によって特色が違う色鮮やかで楽しいこけしが載っています。お家にあるこけしはどこで作られたのだろう。どんな歴史があるのだろうと想像して読むのも面白いかもしれません。

『こけし図譜』

佐々木 一澄 // 絵と文, 誠文堂新光社, 2020年,
978-4-416-51946-2

別れの形はみんなそれぞれ違う



バンドがどのように活動休止・解散したかをまとめた一冊です。著者がはじめに「成功しているバンドはどれも同じようにみえるが、バンドの解散にはそれぞれの不幸の形がある」と論じるように、バンドがいわゆる「音楽性の違い」で解散する裏では、金銭問題、メンバー間の不和、メンバーの逮捕、女性関係、レコード会社との関係悪化、メンバーの死去など様々な人間ドラマが複雑に絡み合っているのを痛切に感じました。バンドが好きな方に読んでもらいたい一冊です。

『バンド臨終図巻』

速水 健朗 // ほか著, 河出書房新社, 2010年,
978-4-309-27185-9



※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。

『日本製』の未来へ思いを馳せる。



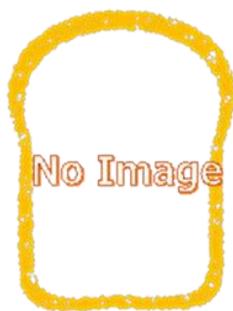
本書は作者が4年以上にわたって日本全国47都道府県を訪ねて現地の人と対話し、直に見聞きしたことを自身の思索を交えて伝えてくれる本です。私たちが暮らす千葉県で作者が訪れたのは、香取郡にある、ちば醤油さんの工場です。作者はぬか漬けにハマったことがあるくらい、発酵に興味津々です。現地に着いたとき、車から降りた瞬間のお醤油の匂いに嬉しそうな作者。春馬君のファンの中では、映画やドラマのロケ地や日本製で訪れた場所に赴くことを「春活」と呼んでいるようですが、私もやってみました、春活。工場について車のドアを開けた瞬間のお醤油の匂い！工場の壁のカビ！本当でした。実際に行って体験してみることで、より深く本書を味わうことができます。

自分が暮らす県に誇りが持てると同時に、きっと、実際に行ってみたいと思うところがいくつも見つかる、そんな楽しみをもらえる本です。

『日本製』

三浦 春馬 // 著, ワニブックス, 2020年,
978-4-8470-8281-8

道具がもたらす、スポーツの新境地



アスリートが必死に競技に取り組み、よい結果を残そうと才能を発揮する傍ら、道具という存在がまた、それを支えています。

その存在の大きさは、時にアスリートのパフォーマンスの質を大きく向上させ、競技のレベルを別次元に誘うほど大きなものです。

アスリートではない、道具の科学がもたらしてきたスポーツの進化の歴史とはいったいどのようなものなのでしょうか？

たった一つの道具の進歩が、スポーツの世界を大きく変えてしまう。そんな魔法のようなテクノロジーの物語をぜひお楽しみください。

『スポーツを変えたテクノロジー』

スティーヴ ハイク // 著, 白揚社, 2020年,
978-4-8269-0219-9

野球にかける真摯な思い



高校野球では、県外出身の球児たちのことを「ガイジン部隊」と揶揄する言葉があるようです。私も高校野球の試合を観戦した際に、これに似た心無い言葉が球児たちに浴びせられる光景を、目の当たりにしたことがあります。

野球をするために、わざわざ遠い場所にある学校へ入学することは、賛否両論あってしかるべきことかもしれませんが、少なくとも、覚悟をもってその人生を選択した球児たちに、罵声を浴びせられるような罪は無いのではないのでしょうか？

本当に「ガイジン」などと揶揄する言葉が正しいのかどうか。球児たちのチームにかける思いやその実態を、ぜひ確かめてみてください。

『オレたちは「ガイジン部隊」なんかじゃない!』
菊地 高弘 // 著, インプレス, 2020 年,
978-4-295-00856-9

天才の生きた証、ここにあり

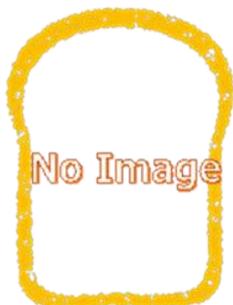


ここ数年、将棋界は羽海野チカ著の漫画「3月のライオン」や藤井聡太二冠の活躍により賑わいを見せています。約20年前、その将棋界に若き天才がいました。名前は村山聖（むらやまさとし）。

この本には29歳という若さでこの世を去った彼の棋譜や、インタビュー・アンケートの回答などが掲載されています。彼の将棋をこの本を通して感じてみてください。将棋が好きな人には、棋譜を並べて勉強するにもうってつけの本ですよ。

『村山聖全局集』
村山 聖 // 著, 日本将棋連盟, 2020 年,
978-4-8399-7363-6

ボードゲームで新たな世界に飛び込もう！



日本で有名なボードゲームというと、モノポリーや人生ゲームでしょうか。ボードは使いませんが、UNO もボードゲームに含まれます。しかし世界にはそれ以外にも数えきれないほどのボードゲームが存在します。その案内役となってくれるのがこの本です。親子で遊べるボードゲームという視点で50タイトルを厳選。もちろん大人も楽しめるゲームばかりです。ゲームの魅力やさらに楽しむ方法まで紹介してくれているので、遊んでいる自分たちを想像しながら選ぶことができます。

ステイホームのお供を、この本で見つけてみてはいかがでしょうか？

『おうちでボードゲーム for ママ&キッズ』
すごろくや // 著, スモール出版, 2016年,
978-4-905158-34-9



言葉を知ると 見える景色が 変わります



はるつ くさ こいおし とり のわき む
春告げ草（梅）、恋教え鳥（セキレイ）、野分（秋の台風）、六つの花

（雪）など、日本には花、鳥、天候、色など、一つの言葉を表す、日本独自の表現による言葉があります。

色鮮やかな写真と、短く読みやすい解説文で、日本の言葉の文化に触れてみませんか？

『日本の美しい言葉辞典』
梅内 美華子 // 監修, ナツメ社, 2020年,
978-4-8163-6850-9



かつてない衝撃と感動へ導く巧緻を極めた本格ミステリ



著者・相沢沙呼が初めて殺人事件を扱った本格ミステリの傑作。この作品の凄さは最終話まで読めば必ず堪能できます。初刷帯に「全てが、伏線」とある通り、著者の精妙な話と見事な論理とトリックに感動すること必至です。

話は4話の連作短編で構成され、推理作家の香月史郎が警察の媒介者「medium」となり、城塚翡翠の霊視を論理と組み合わせて3話まで各事件の謎を解いていきます。さらに背後でインターロードとして連続殺人事件が語られ、最終話でいよいよその真相に迫る…、そして衝撃と驚愕の「ラスト」へ！

間違いなく今までにない感動と、驚異の相沢マジックを存分に味わえます。

『medium』

相沢 沙呼 // 著, 講談社, 2019年,
978-4-06-517094-6

コロナ時代にベランダでミニトマトを



マンションのベランダ菜園をしているお隣さんのイケメン男子と大学生主人公とのお野菜料理でつながる関係が描かれています。

読み終わると少し元気になれる本。

コロナ時代にベランダ菜園までは夢ですが、自分でミニ栽培キットを買って生きているミニトマトが食べたくくなりました。

各所でおいしそうなお野菜料理が出てきて健康になれる本です。

シリーズ全9冊。

『おいしいベランダ。』

竹岡 葉月 // 著, KADOKAWA, 2016年,
978-4-04-070883-6

少し幸せを考える



表題作のほか2編を収録した一冊です。そういうこともあるよな、と思える物語ながら、心の奥底をつつかれたような痛みと、やるせなさ、あたたかさを感じます。夢や希望があっても叶えられるとは限らないのが現実で、意図せず落ち着いた場所が案外幸せだったりする。収録順に読むことをおすすめします。

『されど私の可愛い檸檬』
舞城 王太郎 // 著, 講談社, 2018年,
978-4-06-513513-6

推理小説を超えたスケール



トラベルミステリーが定番の西村京太郎の若い頃の作品。電車を使ってのトリックだと小さくまとまりがちだが、これは全然違う。

インド洋上でのマンモスタンカーの炎上、沈没に始まり、舞台は本土から沖縄、ブラジル、南アフリカ共和国にまで及び。雄大なスケールで描かれた作品である。

『消えたタンカー』
西村 京太郎 // 著, 講談社, 1999年,
4-06-263983-1

軽く読めて、笑えて感動できる



大手本屋で働く28歳独身、契約社員の女性が、ピントのずれた店長の元、文芸書担当として次々とトラブル解決しながら成長する物語。

思いも寄らないラストに感動できる一冊です。

『店長がバカすぎて』
早見 和真 // 著, 角川春樹事務所, 2019年,
978-4-7584-1339-8

『聞く力』から「知る力」へ本



アイドルや宇宙、心理学など幅広い分野の第一人者と言われる14人にインタビュアーである阿川佐和子さんの『聞く力』によって貴重な話をわかりやすく引き出していく対談集。

話し手に話させる環境を作り出すことで、今まで興味のなかった分野でも、読んでいくうちにどんどん引き込まれていく感覚があり、普段では知る事の出来ない話を得ることができる面白い一冊。

『阿川佐和子の世界一受けたい授業』
阿川 佐和子 // 著, 文藝春秋, 2012年,
978-4-16-008610-4

あなたは大切な人に何を遺せますか



“仕事一筋で家事力0の夫への、ガンにかかった妻からのラブレター” 子供のいない50代の夫婦に突然降ってきた妻のガンの告知。旅立つ1年余りの日々で、**鬼コーチ**となり夫を家事力100%?として仕込んだ妻の奮闘記です。簡潔で読みやすくリットに富んだ文書です。

妻を失った著者は、生きる意欲を失いそうになったが、妻に叩き込まれた料理によって再び生かされ、現在の生活を支えてくれている。食べることが生きることなら、料理は「生きる力」となっているという言葉が心に残っています。

『僕のコーチはがんの妻』
藤井 満 // 著, KADOKAWA, 2020年,
978-4-04-109653-6

ミステリーのおすすめ

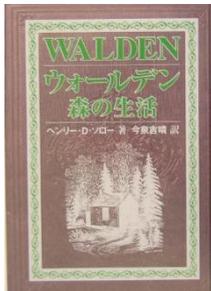


名探偵得るキュール・ポアロが登場する話の中で、最も衝撃を受けた作品。

殺人事件とポアロの最期が描かれていますが、何度読んでも考えさせられる一冊です。

『カーテン』
アガサ クリスティー // 著, 早川書房,
2011年, 978-4-15-131033-1

いろいろな事や、物がありすぎて嫌になる



ソロ-が行った森での生活を、人生においてできる人はそんなに多くはないかもしれません。もちろん自分もです。ただ時々、無性に今の生活様式とは別の生活をしてみたいと思うとき、ふと思い出して読み返したくなるのが、この本です。

『ウォールデン森の生活』

ヘンリー D.ソロ-//著, 小学館, 2004年,
4-09-387495-6

お金がなくては暮らせないのか・・・



定年までまだまだあるし、働けなくなったらどうしよう。うんざりしながら毎日、そんな事を考えていた頃、題名に惹かれて手にとりました。

著者のマーク・ボイル氏が1年間、お金を使わずに生活する実験をまとめたものです。「無銭経済宣言、お金を使わず生きる方法」もおすすめです。

『ぼくはお金を使わずに生きることにした』

マーク ボイル//著, 紀伊國屋書店, 2011年,
978-4-314-01087-0

ふわふわの綿毛のロバと過ごすアンダルシア



表紙が色鮮やかな長新太さんの絵だったのと、理論社(児童書出版社さんなのです)から出版されていたので、児童書かなと思い手に取り出会いました。ふわふわの綿毛のロバのプラテロを愛でる眼差し、色鮮やかな花が溢れるアンダルシアの情景…暖かな日差しを浴びているような、ほかほかした気持ちになる詩集です。

長新太さんのユーモラスな挿絵が随所に入っているところにも、思わず笑みがこぼれてしまいます。昨年、ステイホームで気持ちが落ち着かない頃に読み、気分を落ち着かせていました。

『プラテロとわたし』

J.R.ヒメネス//作, 理論社, 2011年,
978-4-652-07981-2

チェーホフの深遠に触れる一冊

ともしび・谷間

他七篇

チェーホフ作

松下 裕訳



悲劇でもごもごの人生。人間の痛みはせせこましくてかたしい。〈この世のことは何ひとつわかりやしない〉という言葉が重い余韻を残す『ともしび』。〈母なるロシアはでっけえでなあ〉と語る老人が印象的な中篇「谷間」。他に「美女」「箱に入った男」「箱に入った男」「すぐり」「恋について」「修正」「いいなすけ」を収録。



赤 623.7
岩波文庫

チェーホフの短編を読み始めたのは高校生の頃だったが、19世紀末のロシアに生きる人々の話と思えないほど、まるで隣にいる誰か、そして私自身の話と感じてしまうことが多い。

チェーホフの没年を越えた今でも、なぜこれほど胸に刺さる話を書けるのか、呻らされてしまう。

この短編集に集められた作品は佳作揃いだが、「箱に入った男」

「すぐり」「恋について」の三部作はとりわけ印象深い。

滑稽さと悲劇、秘めた恋と人生の喪失は常に隣り合わせである。

『ともしび・谷間』

チェーホフ//作, 岩波書店, 2009年,
978-4-00-326237-5

図書館員のおすすめする一冊（令和2年度版）

令和3年2月発行

編集・発行 松戸市立図書館

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 2060

TEL 047-365-5115

※書影は日外アソシエーツブックデータサービスを利用しています。